

桜の大通から漱石も歩いた材木座へ

【コース】 JR 鎌倉駅～妙本寺～八雲神社～安国論寺～五所神社～実相寺～旧河内屋～
材木座公会堂(昼食)～大木伯爵別邸跡～光明寺～御廟所～内藤家墓地～和賀江嶋～
光明寺バス停(解散: 15時頃)

◎妙本寺

【山号寺号】 長興山妙本寺 ちょうこうざんみょうほんじ 【宗派】 日蓮宗 【創建】 文應元年(1260)

【開山】 日蓮 【開基】 比企大学三郎能本 ひきだいがくさぶろうよしもと 【本尊】 三宝尊

鎌倉時代初期の幕府の重臣であった比企能員の邸宅跡。能員の養母比企局は源頼朝の乳母であった。能員の妻は二代將軍頼家の乳母、能員の娘若狭局は頼家室である。建仁三年(1203)、頼家の後継をめぐり北条氏と対立した能員は北条時政に謀殺され比企一族は滅ぼされた(比企の乱)。

開基の能本は能員の末子 よしかず。乱当時2歳で助かり京都で成長し儒者となって朝廷に仕えた。その後鎌倉に戻って幕府に仕え、旧邸宅跡に住まいを持った。後、日蓮に帰依し一族の菩提を弔うため邸を喜捨して当寺が創建された。日蓮は能本の父の法号長興と母の法号妙本をとり、山号寺名とした。

日蓮が身延山に移った後、弟子の日朗 にちろう(日蓮宗の「六老僧」の一人)がここを拠点に布教を行った。宗門の格式の高い寺の一つで、昭和十六年までは東京の池上本門寺と「両山一主」であった(一人が双方の住職を兼務)。

境内には比企一族の供養塔、能員の娘で乱で亡くなった二代將軍頼家夫人若狭局 わかさのつぼねを祀った蛇苦止堂 じゃくしどう、頼家と若狭局の子でこの乱の折6歳で落命した一幡 いちまんを祀った袖塚、二人の子で後に四代將軍藤原頼経夫人となった媛子 よりつねの遺言で建てられた新釈迦堂跡がある。新釈迦堂の住職だった仙覚は文永六年(1269)「万葉集注釈」二十巻を完成した。



妙本寺祖師堂

◎八雲神社(大町)

【祭神】 須佐之男命・佐竹氏の御霊他 【創建】 永保年間(1081～1084)

河内源氏二代目棟梁・源頼義の三男・新羅三郎義光が兄・義家の奥州攻め(後三年の役)の助勢に赴く途中この地に立ち寄った際、疫病に苦しむ人びとを見て京都祇園社の祭神を勧請したのが始まりとされる。明治の始め鎌倉祇園社から八雲神社に改称された。

◎大町

鎌倉時代の大町は、大町大路と若宮大路が交差する下馬付近から名越に及び広い地域で、大町大路沿いに多くの町屋が並び、特に大町大路と小町大路が交差する現在の大町四ツ角の周辺は「町屋御免地区」といって、幕府から商売を許された地区で鎌倉随一の繁華街であった。和賀江嶋や六浦で陸揚げされた全国の産物が売買される場所として賑わったという。

◎安国論寺

【山号寺号】^{みょうほけきょうさんあんこくろんじ}妙法華經山安国論寺

【宗派】日蓮宗

【創建】建長五年(1253)

【開山】日蓮

【本尊】^{なむくおんじつじょうほんししゃかむにぶつ}南無久遠実成本師釈迦牟尼仏

日蓮は建長五年に安房国で立教開宗をした後、鎌倉入りをした。初めに庵を結んだのが松葉ヶ谷で、当寺はその聖跡の一つと云われている。

本堂の向い側に日蓮の当初の修行場で、文應元年(1260)に前執権北条時頼に差し出した『立正安国論』^{りっしょうあんこくろん}を起草したと云われる「御法窟」があり、また本堂の裏山に同年の「松葉ヶ谷の法難」の折に白猿に導かれて避難したという「南面窟」がある。

当寺二世の日朗は、元應二年(1320)に亡くなった時「出家得度の松葉ヶ谷で」との遺言どおり当所で火葬され、「荼毘所」^{だひじょ}が設けられている。

境内には、土光敏夫(元臨調会長、経団連会長、東芝社長やIHI社長等を歴任)の墓がある。

◎五所神社

【祭神】^{おおやますみのみこと}大山祇命、^{あまてらすおおみかみ}天照大御神、^{すさのおのみこと}素戔嗚尊、^{たけみなかたのみこと}建御名方命、^{すうとくいんのみたま}崇徳院御霊

【例祭】6月第二日曜日【宝物】弘長2年(1262)銘石造板碑、石造庚申塔、神輿三基

当地はもともと乱橋村と材木座村に分かれていたが、明治に合併し戦後の住居制度により材木座と改められた。もと乱橋に三島社、八雲社、金毘羅社の三社が、もと材木座に諏訪社^{みづま}、視女八坂社の二社があった。明治6年、三島社が材木座の鎮守として村社に列格され、その後、明治41年、村内の他の四社が合祀され、社名を五所神社と改称した。境内社に石神社がある。

鎌倉天王唄^{みざい}：例祭乱材祭の神輿神幸で歌われる天王唄は、源頼朝が鶴岡八幡宮を造営した際、材木座から材木を運んだ時に歌われた木曳歌と伝えられている。歌詞の内容から、材木座が和賀と称した鎌倉時代から歌い継がれ、今日に継承されたものとされる。

◎實相寺

【山号寺号】^{こうえんざん}弘延山實相寺

【宗派】日蓮宗

【創建】弘安7年(1284)

【開山】日昭上人

【開基】越後の太守 風間信昭公

【本尊】

一塔両尊四士

曾我兄弟に父の仇として討たれた武将、工藤祐経^{くどうすけつね}の屋敷跡といわれる。日昭上人は、母親が祐経の娘といわれ、日蓮聖人の直弟子(六老僧)の筆頭として、聖人亡き後は一門の長老と仰がれた。

弘安7年に「浜土の法華堂」を寺として、法華寺と称したのが当山の前身であるが、法華寺はその後伊豆に移り、跡地に元和7年(1621)日潤上人により再建されたのが現在の實相寺だといわれる。

本堂背後右手奥の墓地の石段の上に日昭上人の御廟がある。

◎旧河内屋

横浜吉田町にあった浜田屋呉服店の別荘として明治20年代に建てられた。当時の浜田屋



五所神社



實相寺山門

当主の高橋啓介は、幕末まで材木座の隣の飯島において河内丸という大きな船で海運業を営んでいた。安政地震で大きな被害を受け、横浜に出て呉服商として成功した。材木座に別荘を建てたが地元の人は、昔の屋号で河内屋と呼んだ。明治 30 年夏、夏目漱石は河内屋の一室を借り大木伯爵別邸に滞在する妻境子ら中根家の人々と過ごした。

◎旧大木伯爵別邸跡

大木伯爵家は漱石の妻鏡子の実家中根家の縁続きで、明治 30 年当時の当主の大木^{たかとう}喬任は、枢密院議長、文部大臣、司法大臣を歴任した明治の顯官である。鏡子は明治 30 年夏、実家の家族とともに当地で静養した。漱石も近くの河内屋の一室を借りて通った。

◎光明寺

【山号寺号】天照山蓮華院光明寺【宗派】浄土宗（大本山）【創建】寛元元年（1243）

【開山】然阿良忠上人^{ねんありょうちゆう} 【開基】北条経時^{つねとき} 【本尊】阿弥陀如来

寺伝によれば、第 4 代執権北条経時は、仁治元年（1240）佐助ヶ谷に蓮華寺を創建し然阿良忠上人を開山とした。寛元元年に現在地に移し光明寺としたという。良忠上人は浄土宗三祖で、伏見天皇から「記主禅師」の名を賜っている。明應四年（1495）、九世観誓祐崇の時に後土御門天皇から「関東総本山」の称号を受け、「祈願所」に定められた。浄土宗の「お十夜法要」発祥の地でもあり、同年勅許されて以来、現在も盛大に法要が行われている。江戸時代には関東十八檀林（浄土宗の学問所）18ヶ寺の筆頭（後に次座）となり多くの修行僧が集まった。

当地には光明寺が移る前に極楽寺末の満福寺があり、和賀江嶋の管理を行っていたとの説もある。境内の綱引地蔵の銘文に正中 2 年（1325）の年号と発願満福寺（住）侶教義とある。

天照山御廟所：光明寺背後の天照山の中腹にあり、良忠上人はじめ歴代の住職の墓（卵塔）や開基北条経時の墓（宝篋印塔）がある。

内藤家墓地：光明寺の大檀家・日向国延岡藩主内藤家歴代の墓地。江戸時代の巨大な宝篋印塔数十基をはじめとする石造の墓塔群が 200 基近く並ぶ。

◎材木座・和賀江嶋

和賀はもと材木座の古名ともいわれ、鎌倉時代の旺盛な建築需要を満たすための木材はこの地から陸揚げされた。材木座海岸東南の飯島岬から海中に約 200m 延びた石積みの防波堤・埠頭の痕跡を和賀江嶋と称し、現存する日本最古の築港遺跡として国指定の史跡。

往阿弥陀が、貞永元年（1232）に鎌倉幕府（第 3 代執権北条泰時）の許可を得て 1 か月ほどで完成したとされる。鎌倉時代後期には当地の管轄権は極楽寺にあったという。

中世鎌倉の材木商の同業者組合である「材木座」が和賀江嶋の近くに置かれたことから、後に材木座は地名となった。貞治 6 年（1367）9 月 5 日付の足利義詮御教書によれば、「鎌倉材木座」を佐々木道誉に返付する命令がだされており、「材木座」の存在が裏付けられている。





夏目漱石と材木座弁ヶ谷

明治30年夏、熊本の五高教授であった漱石は、妻鏡子と上京した。鏡子は長旅で流産し実家の中根家が夏を過ごす材木座弁ヶ谷の大木伯爵別邸で家族とともに静養することになった。漱石は伯爵別邸近くの河内屋に部屋を借り、東京と鎌倉を行き来して一夏を過ごした。鎌倉では境子の弟^{ひとし}倫らと海に潜ったり海岸で相撲をしたりしている。



同年9月初めには、以前参禅した円覚寺帰源院に世話になった釈宗活を訪ねた。このとき詠んだ「佛性は白き桔梗にこそあらめ」は、帰源院の石碑に刻まれている。

明治45年夏にも漱石は、材木座弁ヶ谷に田山別荘という一軒家を借り子供たちを材木座で過ごさせている。このとき幼い子供たちに宛てた葉書が残されている。

材木座の海岸のことは、後に小説「こころ」の冒頭で先生と知り合いなる場面に反映されている。